

私が税を身近に感じたのは、最近体に赤い発疹ができていたときだ。かゆみがなかったので「病院に行くほどでもないかな」と思っていたけど、お母さんにすすめられて受診した。診察も薬もすべて無料だったので驚いた。これは税金で医療費が支えられているからだを知り、ありがたいと感じた。もし、お金がかかっていたら行かなかったかもしれない。でも、税金のおかげで気軽に安心して病院に行けることを実感した。

調べてみると、税金は学校の校舎、机や椅子、教科書、一人一台のパソコン、実験器具などに使われていて、私達は学ぶことができている。ほかにも医療や福祉、水道、道路の整備、警察や防衛など生活全体を支える大切なところにも税金が使われている。私は日常生活の中でいつも税に支えられていることを知り、税はなくてはならないものだと感じた。

では、その税は誰によって支えられているのか。私は「どんな人たちが税に関わっているのか」を調べてみることにした。

一つ目は税を扱う人。税が正しく収められているかチェックを行う税務署の職員。計算して市民に通知、徴収をする市役所や町役場の税務課職員。税制を企画、運営をする国税庁や地方自治体の職員。企業や個人が正しく税金を申告できるようにお手伝いをする税理士。二つ目は税金を活用する人。どこにどう税金を使うか予算を配分する市や県の行政職員。給料が税金で支払われている警察官や消防士、自衛隊員、教師などの公務員。三つ目は納める人。給料から税金を納めている働く人たち。消費税を通して税金を負担している買い物をする私たち。利益に応じて法人税を納める企業の方々。

つまり、税には「集める人」「使う人」「納める人」と多くの人たちが関わっている。つくり、つなげ、広がり、めぐって、みんなの幸せの「輪」となっている。この「輪」があるからこそ今の生活が続いているのだと思う。作文を書きながら、私は「いつもありがとう」という感謝の気持ちが湧いてきた。

私はまだ中学生なので税を払うなど直接関わってはいない。けれど、この「輪」を崩さないために、これからも税や社会に関心を持ち、税を無駄にせず、大切に正しく使っていくことが今の私にできることだと思う。そして何よりも、病院で安心して診察を受けられたり、学校で机や教科書を使って学べたりするのは、税のおかげであり、たくさんの人に関わってくれているからだ。私が将来税を納める時が来たら、今の安心した暮らしを守ってくれた恩返しとして、困った人を助けるような、みんなの幸せをつなぐ税を納めたい。さらに、私らしく社会の力になれる仕事に就き、税を納めていきたい。そして、この感謝の気持ちを繋げていきたい。この日常を、未来に受け継いでいきたい。